

「予報用語に関する気象予報士のつぶやき」

【第16回】予報用語に関する気象予報士のつぶやき

「どちらの出身ですか？」

「新潟です。」

「北陸ですか！ 良い所ですね。」

「…。」

私見ですが、新潟県民に対し新潟県は北陸地方又は関東地方という話をすると、怒りはしないが納得もしてくれないでしょう。新潟県民は、新潟は北陸でも関東でも、さらに東北でもなく、新潟であるという「誇り」を持っています。ゆえに地方の話をすると、「新潟県は新潟地方（上越、中越、下越及び佐渡）です。」という返事が返ってくるでしょう。

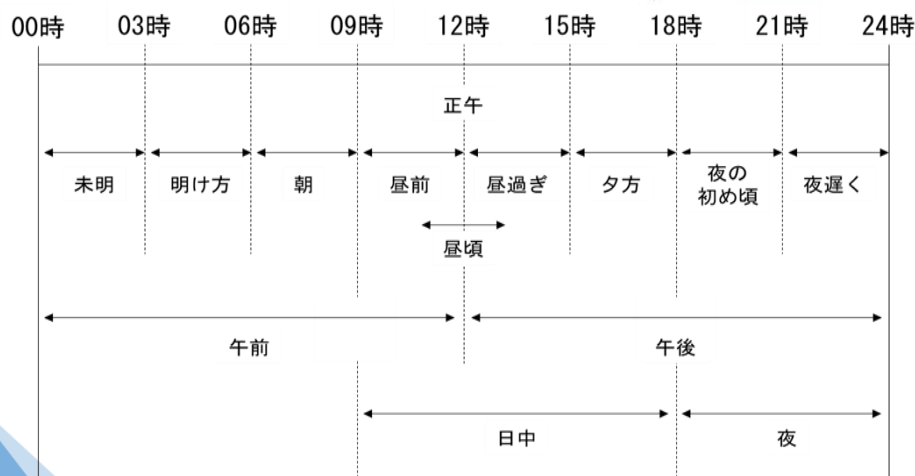
さて、ここからは予報用語の話になりますが、予報用語の地域名において、新潟県は北陸地方に含まれます。新潟県民は納得しないでしょうが、右図（季節予報で用いる予報区分）のとおり、新潟県は北陸地方です。

予報用語は、場所や時間、気象現象及びその現象の程度等を万人に対し正確に伝えるため、用語の定義し使用しています。



下図は時間に関する用語です。

＜時に関する気象用語＞



図のとおり、3時～6時は、「午前」又は「明け方」です。例え、日の出が8時前であろうとも「明け方」なのです。9時過ぎは「昼前」です。我が家の高1の息子でもあるまいし、そんなに早くお腹は空かないでしょうに…。しかし、予報用語を定義しておかないと、聞き手によって気象予報の内容が変わってしまうのです。

＜天気現象の出現時間等の予報表現＞

| | |
|----|---|
| 一時 | 現象が連続的に起こり、その現象の発現期間が予報期間の1/4未満の時 |
| 時々 | 現象が断続的に起こり、その現象の発現期間の合計時間が予報期間の1/2未満のとき |
| のち | 予報期間内の前と後で現象が異なるとき、その変化を示すときに用いる |

上の表は、天気予報で使用する用語です。「一時」は予報期間の 1/4 未満、「時々」は予報期間の 1/4 以上 1/2 未満で現象を予想する場合に使用されます。

私は小さい頃、感覚的に「時々」の方が「一時」よりも時間的に短いと思っていたので、いつも天気予報とその説明に違和感を持っていました。

一般に使われている言葉であっても、天気予報や解説する際には使用を控えなければならない言葉もあります。例えば「ゲリラ豪雨」です。報道でよく使用されていますが、「ゲリラ」という用語には、テロリズム等の凶悪犯罪を連想させるため、気象庁では使用を控えるようにしています。では、どのような用語で急な大雨を表現するかというと、「局地的大雨」や「集中豪雨」、「短時間強雨」などの用語を使用します。

気象庁は、「明確さ」「平易さ」「聞き取りやすさ」「時代への適応」の観点から予報用語を定めています。

＜使用を控える用語＞

| 用語 | 説明又は言い換える用語 |
|-------|---|
| 良い天気 | 意味がいろいろに解釈され誤解を招きやすい。 少雨の時期は、晴れよりも雨の方がよい天気とも言える。 |
| ゲリラ豪雨 | → 局地的大雨、集中豪雨、短時間強雨 |
| 雨模様 | → 雨やくもり |
| 雨があがる | → 雨がやむ。 |

最後に、少し専門的な用語になりますが、本コラムの読者には覚えて欲しい用語があります。それは、「特別警報」と「線状降水帯」です。「特別警報」や「線状降水帯」というワードがテレビやスマホから流れてきた時は、命に危険が及ぶ状態です。

「特別警報」は、数十年に一度という極めてまれで異常な現象を対象に発表されます。「線状降水帯」は、次々と発生する発達した雨雲（積乱雲）が列をなした、組織的な積乱雲群によって数時間にわたって同じ場所を通過又は停滞することで作り出される線状に伸びる強い降水を伴う降水域をいい、大雨災害発生の危険性が急激に高まっている状態です。「特別警報」や「線状降水帯」が発表される場合は、大雨による土砂災害や浸水害、洪水害等の発生が切迫している、若しくは既に発生している危険な状態であることを意味します。他人事とは思わず、命を守る行動をとって欲しいと切に願います。

気象情報をはじめ、情報を正確に相手に伝えることはとても難しいです。いつも、娘に「ちょっと、何言っているか分かんないっす。」と叱られている筆者は、その度に、正確かつ適切な用語を使おうと誓うのでした。

（小松気象隊）

出典

気象庁 HP : <https://www.jma.go.jp/jma/index.html>